

学 校 教 育 目 標	心豊かで たくましく 尾間木っ子の育成
目 指 す 学 校 像	○よく整えられ、安全で美しい、潤いのある学校 ○共に学び合い、高め合う楽しい学校 ○規則と秩序のある歌声の響く学校

重 点 目 標	1 全職員一丸となって取り組む学校課題研究の充実と授業力の向上 2 全校児童が自主的に行動し、「認め、褒め、語らせる」教育活動の充実 3 地域・保護者・近隣学校等との信頼関係を基盤とする学校づくり 4 明るく活気があり、安全で安心できる学校環境の充実 5 教職員一人ひとりのキャリアアップを目指した職場づくり
---------	--

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、
方策の評価指標」を設定。

達	A	ほぼ達成	（8割以上）
成	B	概ね達成	（6割以上）
度	C	変化の兆し	（4割以上）
	D	不十分	（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	学びの質の向上に関する取組 ＜現状＞ ○全国学力・学習調査や市の学習状況調査では、今年度は、平均を上回った。「対話的な学び」に重点を置いて自分の考えを持たせる取り組みを継続させている。 ○基礎的な学習の積み重ね、全学年を通じた系統を意識した指導を行っている。 ＜課題＞ ○国語科では、文章と図を関連付けて読み取ることが課題で、算数科においてはデータを活用することと何を求められている文章から読み取ることである。 ○自ら主体的に取り組み、授業に見通しをもって学んでいくことである。	・学校課題研究「主体的で対話的な深い学びのもと、自分の考えを表現できる子」の充実	①「主体的で対話的な深い学び」を定着させ「根拠をもとに伝えあう力」を育成し「自分の考えを表現できる」様にする。 ②根拠をもつての表現する際にタブレットを活用し、視覚的に学習内容を提示し理解度を高める授業づくりをする。	①学校課題研修評価の児童アンケートにおいて、「根拠をもって対話することが出来たか」と回答する児童が90％以上となったか。 ②学校自己評価の児童アンケートにおいて、「自分の考えを表現できたか」に関係する項目で90％以上となったか。					
		・「学びのポイント」を活用し、基礎学力の定着と向上	①「学びのポイント」（じしゃく）を活用した授業づくりを行い、授業研究等において取り組む。 ②全国及び市の学習状況調査の結果を活用し、児童の基礎学力の向上について分析し、具体的な手立てを設定・実践する。	①教職員アンケートで、主体的に取り組むことに関連する項目において肯定的な回答が90％以上になったか。 ②研修アンケートにおいて「学びを実感できるように、授業において学習の「振り返り」を行うことができたか」の項目で90％以上になったか。					
2	子どもの発達や心のサポートに関する取組 ＜現状＞ ○学校評価アンケートや全国学力・学習状況調査の生活習慣でも普段の生活に心の安定が見られる。 ○「心と生活のアンケート」の結果を基に児童の心に寄り添い、面談をすることで児童の育成を行っている。 ＜課題＞ ○ICT 活用については、スキルの個人差が見られるので、教職員全体の向上が課題である。 ○児童の気持ちに寄り添い、多様化する保護者に対する理解と対応が課題である。	・「凡事徹底」と「褒めて・認めて・語らせる」教育の実践及び実現	①声掛けをするときには、児童の言動を受け止め、認め・褒めて、自らの言葉で語らせることを行い、必要に応じて指導・助言をする	①学校自己評価のアンケートにおいて、「先生は、がんばりや善い行いに対して、認めたり褒めたりしてくれますか」の項目で95％以上を維持					
		・生徒指導と教育相談に関する取り組みの向上を目指す	①「心と生活のアンケート」の結果を活用し、タブレット端末やアプリを使い分析し、児童の心の安定を図る。 ②アンケートでネガティブな回答をした児童にこそ、注意し一人でも減らすようにする	①毎月、児童の情報を共有・分析・対応を強化する生徒指導委員会、教育相談部会の確実な実施。					
3	地域と共にある学校づくりに関する取組 ＜現状＞ ○学校運営協議会を推進させ、熟議のもと協働して児童を見守る・育成することを確認し、今年度の方針を確認できている ＜課題＞ ○学校運営協議会で熟議し決まった内容を、保護者・地域で多くの方々と共に共有して、協働することが課題である。	・SNSを活用し教育活動を公開して情報の共有	①HPにブログを立ち上げ、普段の教育活動を公開し、情報を共有する ②SSN 会議で情報を共有することで、小中学校と地域が一緒になり、子どもたちへの声かけ（あいさつ運動等）などを心がけ、交流活動を増やしていく。	①学校自己評価のアンケートにおいて、「学校は、教育活動の情報を地域に伝えている」と回答する割合が85％以上を維持					
		・小中一貫教育に基づいた、地域との協働活動	①学校運営協議会のページを活用し、積極的に活動内容を公開する。	①学校自己評価のアンケートにおいて、「学校、家庭、地域が協働して、児童の育成に関わる取り組みをしている」と回答する割合が90％以上を維持					
4	教育環境の整備に関する取組 ＜現状＞ ○学校施設の保守管理と計画的で確実な予算執行を図り、教育環境の向上をほぼ行われている。 ○リフレッシュ工事の終了に伴い、生活環境が戻り学校行事等の実施が以前ようになった。 ＜課題＞ ○制約から解放され、生活環境に起こる心身の変化やルールについて、生徒指導委員会でも共有し、学校全体で対応することが課題である。	・安全点検を活用し教育環境施設の整備	①備品点検と設備点検を適切に行い設備の充実を図る。 ②事務と連携を密にし、予算執行について学期ごとに目標を立て、計画的に執行していく。	③施設設備の点検を常時（毎日・毎月）行い安全な環境を実施。 ④教育環境整備のための計画的予算執行（R6：95％→R7：96％）を維持する。					
		・安全安心で居場所のある生活に取り組む	①毎月の安全点検を活用し、教職員、児童の施設設備の丁寧な活用を意識させる	①教育相談・生徒指導の連携を密にし、施設設備の活用等について情報を共有する。					
5	教職員のキャリア形成に関する取組 ＜現状＞ ○タブレット端末やアプリを活用する学習を目指し ICT の活用を推進し、務作業時間の短縮を行っている。 ○キャリアステージに合わせ、研修等を提案し、今後の希望を聞きキャリア形成を図っている。 ＜課題＞ ○業務時間の効率化も必要であるが、「働きがい」の充実が課題である。	・キャリア段階に合わせた資質・能力の向上と研修について	①経験年数に応じたキャリアアップのために、年間を通して研修を受講奨励する。 ⑤「尾間木小プラットホーム」を本格運用し、教職員が研修をすることで授業改善に役立てられたか	①尾間木小プラットホーム」を本格運用し、教職員が研修をすることができたか。 ⑥授業改善に役立てようとする教員が多くみられ成果が見られたか。					
		・働き方改革や業務の効率化について	②教職員の意識アンケートで「働きがい」の項目の向上を図る。	③教職員の意識アンケートで「働きがい」の項目で肯定的な回答が80％以上。					